

淵野辺総合病院研修



2010年6月17日～19日に、神奈川県にある淵野辺総合病院に研修に行ってきました。
参加メンバーは樋口看護師、松本看護師、中畑理学療法士です。

淵野辺総合病院：昭和29年に開設（20床）され、地域の中核総合病院として地域住民の疾病予防や治療に専念されている病院です。平成11年度には、介護老人保健施設（青葉の郷）を開設し、病院から家庭まで一貫した治療をされています。

病院施設規模は病床数161床（回復期リハビリテーション病床18床）、診療科目13科であります。

研修日：6月18日

〈外来〉

整形外科の診察室のみ見学させていただきました。

診療時間は9時からということでしたが、8時半より診察されておりました。

〈病棟〉

4～6階まで病棟で主に5A病棟（整形外科と小児科の混合）を見学させていただきました。電子カルテを導入されており、今までの経過やデータが一度に収集出来、情報の共有と診療の効率化が図られていました。

看護師はそれぞれにPHSを携帯しており、ナースコールに担当看護師がスムーズな対応されていました。

病院なら必ずある、医療廃棄ボックスなどへの分別は写真もつけて間違いのないようにと工夫されていました。点滴ボトルの患者氏名のラベルもはがし、個人情報保護においても徹底されていました。



<手術室>

中材から手術室までの見学させて頂きました。

手術室入り口にはスタッフ紹介表が張り出してあり、メンバーの顔写真とメッセージが書かれていました。



これは新人看護師さんに対して少しでも早く手術室メンバーに馴染んでもらおうと作成されたそうです。

この表から手術室スタッフさん達のエネルギーを感じました。

中材に関しては、業者に委託されていました。委託にした事で看護師の業務をスマートにし、看護師本来の業務をもっと効率的に行う事で、スタッフのモチベーションアップに繋げるためと言うことでした。

手術室は3室あり、この日の手術は外科と整形外科の曜日でした。毎日フルタイムで手術が進んでいました。

朝のミーティングの風景です。



患者さん情報や特記事項などの申し送りはもちろんですが、スキルアップ目的で『職場の教養』という月刊誌を毎日読み上げ、「一日の心がけ」を持って業務に取りかかっているそうです。とてもすばらしい取り組みだと感じました。

今回私が見学させて頂いた手術は、「高位脛骨骨切り術」を見させて頂きました。

手術室内には、直介看護師1人と外廻り看護師1人でした。忙しい時には、状況を見てフリーの看護師がヘルプされていました。



スタッフ教育体制としては、3～4年目のスタッフがプリセプターとなり、新人指導にあたっているそうです。また、マニュアルが徹底されていました。

<リハビリ>

リハビリ室は2階のフロアにPT室、OT室、ST室、物理療法室がありました。以前は違うフロアにそれぞれあり、連携がとりにくいこともあったそうですが、現在は各部署が近くにあり連携がうまくとれているとのことでした。

スタッフは理学療法士9名、作業療法士6名、言語聴覚士3名、理学療法助手2名で行っていました。

淵野辺総合病院さんには回復期病棟があり、そこでのADLの考え方や評価の仕方などは非常に勉強になりました。

例えば病棟での入浴では、自宅の風呂場で撮ってきてもらった写真を参考に病棟の風呂場を改造し、そこで入浴練習をしていたことはとてもおもしろく感じました。実際に自分たちのいる状況でもできることなので実践していきたいと思います。

PT室



OT室



左から技師長の斉藤先生、PT 中畑、NS 松本、PT 工藤先生です。



今回、大変お忙しい中、東先生をはじめスタッフの皆様にはとても歓迎していただきました。東先生はもちろんのこと、スタッフの皆さんの医療を改善したいという熱意が非常に感じる事が出来ました。

今回の研修の中でそれぞれが考え治すいい機会となり、今後の課題を見つけるいい機会となりました。

今後も交流の中でお互いを刺激し合い、プロとしての意識を忘れずに、今できる改善点から取り組んでいけたらと思います。

貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。今後もよろしく願い致します！